

The Journal of the Graduate School of Language & Literature

Vol. 12

Articles

- Wolofisation et multilinguisme au Sénégal
- Étude sur l'état des langues nationales dans 7 villes sénégalaises:
Conclusion générale SUNANO Yukitoshi 1
- Analysis of the Japanese composition "Nanbê Saturiku (Massacre in
South America)" by a Brazilian Portuguese speaker BABA Ryoji 17
- A case study of effects on reading speed of extensive reading YOSHII Makoto 33
- Representation of the Vietnam War Experience: Anxiety in the Early
Cold War Years in Tim O'Brien's *If I Die in a Combat Zone* MIMAKI Shiina 43
- Changes in image of Japan through study in Japan: HIRATA Mariko 59
The case of two Taiwanese students SUN Aywei
- Practical usage and language adjustment issues of local Japanese
language volunteers - a survey of "Yasashii Nihongo (Easy Japanese)"
usage in community-based Japanese language classes MICHIMOTO Yuko 83
- Lexical interconnectedness in agricultural sub-disciplines: YAMAMOTO Kayo 111
A corpus-based analysis of semi-popularization articles Richard LAVIN
- Collocation research based on junior-high school English textbooks in
Japan TAKESUE Toshimitsu 125
- Comparison of methods for collecting inner speech data from five
angles OMI Ryosuke 139
- Causative sentences with inanimate subjects in Japanese materials in
the Heian period SATO Yuya 172 (45)
- On *Nōyu* (農諭) Republished by *Igarashi Yoshiyasu* (五十嵐富安) YONEYA Takashi 192 (25)
- On *Pronouncement of the Heavenly Worthy of Primordial Beginning*
on *Living in Heaven and Obtaining the Tao* and two inscriptions YAMADA Takashi 216 (1)

Graduate School of Language & Literature
PREFECTURAL UNIVERSITY OF KUMAMOTO
September, 2019

熊本県立大学大学院

文学研究科論集

第12号

【論文】

- 『元始天尊説生天得道經』と「佛道圖文碑」「霍習墓幢」
— 宋金元三朝道教の歴史性と地域性問題 — 山田 俊 …… 216 (1)
- 五十嵐富安による『農諭』再板をめぐる 米谷 隆史 …… 192 (25)
- 平安期和文における非情の使役 佐藤 友哉 …… 172 (45)
- Comparison of methods for collecting inner speech data from five angles 大見 亮輔 …… 139
- Collocation research based on junior-high school English textbooks in Japan 武末 俊光 …… 125
- 農学下分野間の語彙的相互関連性
— semi-popularization 記事によるコーパス分析 —
山本 佳代、レイヴィン リチャード …… 111
- 地域日本語ボランティアの言語調整の実態と課題 道本ゆう子 …… 83
— 地域日本語教室の「やさしい日本語」検証 —
- 日本留学による日本イメージの変容 平田真理子、孫 愛維 …… 59
— 2名の台湾人留学生の事例から —
- Tim O'Brien のヴェトナム表象 — *If I Die in a Combat Zone* に見る冷戦期初期のアメリカ社会と大衆 — 三牧 史奈 …… 43
- 多読による読書速度の変化に関する長期的なケーススタディ 吉井 誠 …… 33
- ブラジル、ポルトガル語話者の日本語作文「南米殺戮」の分析 馬場 良二 …… 17
- Wolofisation et multilinguisme au Sénégal 砂野 幸稔 …… 1
- Étude sur l'état des langues nationales dans 7 villes sénégalaises:
Conclusion générale

熊本県立大学大学院文学研究科

2019年9月

前号目次

【論文】

- | | |
|---|--------|
| トルコ人日本語学習者の音声と課題
—「Vます？」型疑問文を例に— | 石山 友之 |
| 語アクセントから発話音調へ
—音調句と二段上がりの一考察— | 山下 英一郎 |
| 熊本方言話者と東京方言話者の音読音声の音長的特徴 | 大庭 理恵子 |
| 熊本市における地域共通語話者の発話に現れるコードスイッチング—家族-友人間に着目して— | 吉里 さち子 |
| A Comparison of the Effects of Meaning-focused and Form-focused Instruction on the Learning of Collocations: An Empirical Study | 武末 俊光 |
| Metaphorical and visual representations of scaffolding | 中野 友加里 |
| On the annotations in <i>ARTE GRANDE</i> | 馬場 良二 |
| Wolofisation et multilinguisme au Sénégal—Étude sur l'état des langues nationales dans 7 villes sénégalaises 6.Bakel | 砂野 幸稔 |

熊本県立大学大学院文学研究科論集投稿規程

2019年9月24日改訂

- 1、発行回数 年一回の刊行とし、刊行日は9月末日とする。
- 2、投稿予告期限 刊行年と同年の4月10日とする。
- 3、原稿提出期限 刊行年と同年の6月末日とする。
- 4、編集委員会 大学院日本語日本文学専攻担当者及び英語英米文学専攻担当者から各1名、計2名で構成し、うち1名を編集委員長とする。学部紀要の紀要委員との兼務は妨げない。
本論集に投稿できるものは次のとおりとする。
 - (1) 本学大学院担当教員
 - (2) 本学大学院生および本学大学院修了者もしくは中退者。なお、本学の学部卒業生で、他大学の大学院へ進学し、本学大学院とかかわりを持たなかった者は投稿資格がないものとする。
 - (3) 編集委員会が特に認めた者
- 6、原稿提出先 編集委員長に提出する。その際原稿の受理日を受理受付年月日として受け付ける。
- 7、原稿の査読及び順位 投稿論文は、編集委員会で査読担当者を決めて査読を依頼し掲載の可否を決定する。また、その掲載順位も編集委員会で決定する。採用決定の原稿は変更を認めない。
- 8、版型書式 A5サイズ。分野にあわせ縦書き・横書き双方可。表紙・裏表紙の区別は設けない。ただし横書き用表紙には、英語で統一して全論文タイトルを記し、縦書き用表紙は全論文につき原タイトルのまま（英文等の題を翻訳することはしない）記載する。奥付は中央に置く。
- 9、原稿の分量
 - (1) 下記の仕様で仕上がり26頁以内とする（論題のヘッダ、要旨、図、注を含む）。縦書 54字×18行 横書 34字×32行（欧文の場合は70ストローク、32行）
 - (2) 上記の量を超えた原稿は原則として受理しない。
- 10、原稿の形式
 - (1) 原稿は横書きまたは縦書きとし、9で指示する仕様で作成すること。
 - (2) 和文原稿は口語体とし、常用漢字、現代仮名遣いをもちいること。ただし、国文学、中国文学など特殊な場合はこの限りではない。
 - (3) 引用文献及び注はそれぞれ追番号を付し、原則として文末に記載する。
 - (4) 本文の活字ポイントは所定のものを使用する。特別なフォント等を用いる際は原稿に朱記をもって指定すること。
 - (5) 原稿とともに、電子データをUSBメモリー等で提出すること。
 - (6) その他、細則は別に定める。
- 11、校正
 - (1) 校正は3回とする。二校までは執筆者が行い、三校は編集委員が行う。
 - (2) 校正の際の修正は必要最小限にとどめる。また図版などの増減によって頁数の異同を生ずるような変更をすることはできない。
- 12、抜刷 執筆者に30部を贈る。ただし、さらに追加するときはその実費を執筆者が負担しなければならない。
- 13、発行部数 400部
- 14、著作権処理 当委員会は原則として、本誌に掲載された全ての原稿を電子媒体によって複製、公開し、公衆に送信することができる。また、他誌への転載を希望する場合は、先方からの依頼状を添付して研究科長に申請し、転載原稿には本誌から転載した旨を明記すること。